



新しい学校のすがたを目指す木曽檜川小学校

域重要課題ととらえ、小・中学校を9年制の「義務教育学校」とする方向で検討が進んでいるが、教委の見解及びこれを支援する方策はどうか。
答 平成28年の学校教育法改正で設置が可能になった義務教育学校は、義務教育9年間をひとつの学校とし9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施するもので、柔軟な学年編成や授業内容の前倒し、英語や算数など小学校相当の段階からの専科教員による授業など、これまでの小中一貫校よりさらに進んだ一貫教育が可能になる。

具体的な設置に当たっては、施設改修や条例の制定、教科免許を持った教員の確保など対応が必要だが、地域の意見を尊重する方向で今後の方向性を見定めていく。

◆重伝建地区間を結ぶシヤトルバスは

問 市長は選挙中、重要伝統的建造物群保存地区奈良井宿と同漆工町木曾平沢を結ぶシヤトルバスを公約したが、実現の方策はどうか。
答 さっそく、来年度の予算要求に上げて具体化を目指している。奈良井宿への来客を平沢に積極的に呼び込みたい。

その他、中原巳年男議員が未満児入園要件の緩和について関連質問した。



安全安心快適な街づくり

公明党
質問者
中村 努
山口 恵子
持ち時間90分

◆地区の避難所運営委員会

問 設置の状況はどうか。
答 職員だけでは避難所の開設を始めとした避難所の運営に支障を来す恐れがあるので、地域住民で構成する避難所運営委員会が重要。吉田・北小野・宗賀の3地区で設置されており、今後各地区で設置される予定。
要望 委員も毎年変わる。訓練の工夫をお願いする。

◆避難所と避難施設

問 違いがあり混乱したという事例があるが、きちんと区分して、住民に説明すべきだ。

答 指定緊急避難場所は災害の発生、発生する恐れがある場合に一時的に



避難所か避難施設か？

避難する場所で、屋外の公園等が多い。指定避難所は、災害の危険性があり、危険性がなくなるまで一時的または一定期間滞在させる施設で、本市では相互に兼ねることができるようになっている。

◆仮設住宅の考え方

問 最近の日本は災害が多く、避難所生活をよく見た。長期の避難所生活を送っている様子を、ある外国人記者が「日本は平和で豊かな国なのに、ここはまるで難民キャンプだ」と。今、トレーラーハウスを被災地に貸し出し支援を行っている事

業者もいる。本市もこのような業者と災害協定を結び、避難者の生活を支え災害関連死を防ぐために災害時に協力してもらったらどうか。

答 避難生活者の生活の不自由を早期に解消する対策なので、活用可能な方法を検討する。

◆都市計画について

問 立地適正化計画を各地区で説明している。全員協議会で説明を受けたが、他の都市計画に関する計画と何が違うのか、計画策定で何がかわるのかさっぱりわからない。例えば計画では吉田地区は居住誘導区域になっているが、開発もせずここに居住者を誘導するのか。
答 人口減少、超高齢社会を迎えても、安心して健康で快適な住環境を創り出すとともに財政面経済面でも持続可能な都市経営を目指すものである。本市では、2021年以